

看護学科学学生の看護婦に対するイメージの要因分析

関, 文恭
九州大学医療技術短期大学部一般教育

明田, 恭子
聖路加看護大学

<https://doi.org/10.15017/167>

出版情報：九州大学医療技術短期大学部紀要. 15, pp.35-39, 1987-02-28. 九州大学医療技術短期大学部
バージョン：
権利関係：

看護学科学生の看護婦に対するイメージの要因分析

関 文 恭* 明 田 恭 子**

Multidimensional Analysis on the Image of Nurses
by Students of the Nursing School

Fumiyasu Seki and Kyoko Aketa

一般的に、学生にとって就職したいと考えている職種に対するイメージが好ましいほど、その職種に関する知識・技能を修得する姿勢に好影響を与えると考えられる。¹⁾

本研究は、看護学科学生が看護婦にもつイメージ形成の要因を、SD法 (Semantic differential Method) を用いて明らかにすることである。^{2) 3)}

方 法

対象：九州大学医療技術短期大学部看護学科1年生 (72名)、2年生 (74名)、3年生77名計223名 (すべて女子) を対象とした。調査は、昭和61年1月～2月に実施した。

方法：イメージ調査によく用いられる16アイテムを選定し、SD法による測定を試みた。各アイテムには7段階の選択肢を準備した。16アイテムは次の通りである。

つらい——楽しい、信頼できない——信頼できる、悪い——良い、不調和な——調和した、弱い——強い、やさしい——きびしい、浅い——深い、遅い——速い、固定的——流動的、単純な——複雑な、きたない——きれいな、恰好悪

い——スマート、不必要——必要、失意——情熱、自分に適している——自分に適していない、暗い——明るい。

附加項目として a) 身内に看護職の有無 b) 看護婦になりたくて看護科を志望したか、 c) 就職は看護職を希望するか、 d) 入学後、看護婦に対するイメージが変化したか e) 大学と職業選択は別であるべきかについて回答を求めた。

結 果 と 考 察

デモグラフィカル要因とイメージ：

デモグラフィカル要因とイメージに有意差がみられたものが、表1～表5に示されている。

数値計算は、九州大学大型計算機センターで、SPSSにより、統計処理を行なった。⁴⁾

〈学年別比較〉 看護婦に対するイメージを学年別に比較したものが表1である。表1によれば、学年間にイメージの差がみられたのはわずか3項目である。高学年になるにつれて、相対的に「楽しい」「強い」「速い」というポジティブなイメージをもっている。

〈志望動機〉 志望動機が明確な学生と不明確な学生の間には、有意差がみられたものが、表2に示されている。表2によれば、志望動機が明確な学生 (181名) すなわち、看護職を希望して看護学科を志望した学生は、不明確な学生

*九州大学医療技術短期大学部一般教育

**聖路加看護大学

看護学科学生の看護婦に対するイメージの要因分析

表1 看護婦に対するイメージの
学年別比較 ()はN

	1年(72)	2年(74)	3年(77)
つらい—楽しい	2.67	2.77	3.40 P<.01
弱い—強い	1.93	2.21	2.58 P<.01
遅い—速い	2.21	2.61	2.64 P<.05

表2 イメージの志望動機別比較 ()はN

	明確(181)	不明確(32)
信頼できない—信頼できる	5.47	4.78 P<.01
不調和—調和	4.93	4.21 P<.01
弱い—強い	5.83	5.35 P<.01
きびしい—やさしい	5.04	4.32 P<.01
単純—複雑	5.89	5.34 P<.05
不必要—必要	6.77	6.47 P<.05
失意—情熱	5.55	4.69 P<.01
不適—最適	4.47	3.53 P<.01
暗い—明るい	5.00	4.31 P<.01

(32名)に比べて、看護婦に対するイメージが良い傾向にある。明確な学生は、相対的に「信頼できる」「調和」「強い」「やさしい」「複雑」「必要」「情熱」「最適」「明るい」という9項目について、ポジティブなイメージをもっている。

＜イメージの変化＞ 入学後、看護婦に対するイメージの変化別に有意差がみられたものが表3に示されている。表3によれば、イメージが良くなった学生(106名)、かわらない学生(64名)、悪くなった学生(43名)の順で看護婦に対するイメージが悪くなる傾向がある。すなわちよくなった学生は、相対的に「楽しい」「調和」「やさしい」「流動的」「最適」というポジティブなイメージをもっている。

＜職業選択と大学＞ 「大学の勉強と職業選択は区別して考えるべきである」という意見に対する賛成、反対別に有意差がみられたのが表4に示されている。表4によれば、賛成する学生(29名)が最もネガティブで、わからない学生(77名)が最もポジティブ、反対する学生(106名)がその中間を示している。賛成する学生は29名と少数ではあるが、相対的に「弱い」「固定的」「不必要」「失意」「暗い」「不適」というネガティブなイメージをもっている。

表3 入学後のイメージの変化別比較 ()はN

	よくな った(106)	かわら ない(64)	悪くな った(43)
つらい—楽しい	3.14	2.87	2.60 P<.05
不調和—調和	5.04	4.98	4.09 P<.01
きびしい—やさしい	5.09	4.99	4.47 P<.05
固定的一流動的	4.33	3.90	3.40 P<.01
不適—最適	4.51	4.39	3.79 P<.05

表4 職業選択と大学は区別すべきである ()はN

	賛成(29)	わからない (77)	反対(106)
弱い—強い	2.06	2.51	2.11 P<.01
固定的一流動的	2.94	4.23	4.17 P<.01
不必要—必要	6.37	6.81	6.75 P<.05
失意—情熱	4.80	5.49	5.52 P<.05
暗い—明るい	4.24	5.06	4.93 P<.05
不適—最適	3.86	4.61	4.26 P<.05

＜卒業後の就職希望先＞ 卒業後、看護職を希望するか否かとイメージに有意差がみられたものが表5に示されている。表5によれば看護職を希望する学生(191名)と希望しない学生

(21名)では、希望しない学生は、相対的に「単純」「失意」「不適」「暗い」というネガティブなイメージをもっている。

〈身内に看護職の有無〉 身内に看護職の有無とイメージには、すべての項目にわたり、差がみられなかった。

以上の結果から、看護婦に対するポジティブなイメージをもつのに、最も影響が強いのは、志望動機が明確であることが明らかとなった。

表5 卒業後の就職希望とイメージ ()はN

	看護職以外(21)	看護職(191)	
単純—複雑	5.23	5.86	p < .05
失意—情熱	4.62	5.51	p < .01
不適—最適	3.19	4.45	p < .01
暗い—明るい	4.24	4.96	p < .05

〈数量化3類による分析〉 デモグラフィック要因とイメージのダイナミックな関係を見るために数量化3類による分析を行なった。⁴⁾

イメージについては、7段階の選択肢のうち、中間の選択肢、すなわち、3,4,5に回答したものを除去し明確な反応をしたもの、すなわち、1,2に回答したものと、6,7に回答したものを分析の対象とした。表6に、回答者数とそのサンプルスコアを示している。図1は、表6の第1根と第2根をプロットしたものである。図1によれば、3つの群がみられる。すなわち、図の右上部にある1群、原点を中心とした1群、下部の1群である。右上部の1群は「志望動機が不明確」「入学後イメージが悪化した」「看護職に不適」「就職は看護職以外にしたい」という学生で、看護婦に対しては「きびしい」「不調和」「失意」というネガティブなイメージをもっている。この群の学生は、約12%であり、不適性ネガティブイメージ群といえよう。

原点を中心とした1群は「志望動機が明確」「就職は看護職」「看護職は適性」と思っており、看護婦に対しては「明るい」「楽しい」

「スマート」「信頼できる」「必要」「情熱的」「きれい」「速い」「最適」「良い」「強い」「流動的」「深い」というポジティブなイメージをもっている。この群には、学生の約80%が含まれており、適性ポジティブイメージ群といえよう。

下部の1群は「悪い」「固定的」「信頼できない」「きたない」「暗い」「単純」「遅い」というネガティブなイメージをもっている。この1群は、デモグラフィック要因と関連がみられていないがネガティブイメージ群である。この群には、約8%の学生が含まれている。

以上の結果を総合的に検討してみよう。学生の、看護婦に対するイメージは、学年進行の影響は少なく、看護職への適性、看護職を志望する動機の明確さが、大きな要因であることが明らかとなった。また学生のうち8割は、適性がありポジティブなイメージを有しているが、残りの2割が、不適性、ネガティブイメージを有している。学年進行は、イメージ形成に影響が少なく、志望動機が明確な学生の入学者がふえる方策の検討が必要であろう。

要 約

看護学科学生(女子)の看護婦に対するイメージをSD法を用いて測定した。得られた結果の主なものは次の通りである。

1. 看護婦に対するイメージは、学年進行よりも、志望動機の明確さがきいている。すなわち、志望動機の明確なものが、看護婦に対して、好ましいイメージをもっている。
2. 学生のうち8割は、看護婦に対して、適性があり、ポジティブイメージをもっているが、2割は、ネガティブイメージをもっている。そして12%は看護婦は不適性であると思っている。

表6 数量化3類によるサンプルスコア

記号	項目の要旨	度数	1 根	2 根	3 根	4 根
B 1	つらい	102.	0.82	0.56	0.55	0.87
B 2	楽しい	11.	-5.18	-3.37	-3.41	-7.45
B 3	信頼できない	6.	5.91	-5.59	11.97	9.54
B 4	信頼できる	65.	-1.77	0.49	-0.13	0.32
B 5	良い	47.	-1.28	-0.21	-0.05	3.41
B 6	悪い	8.	-4.03	-6.23	-6.15	-11.59
B 7	不調和な	4.	5.59	-0.70	24.75	6.47
B 8	調和した	32.	-2.77	-0.74	1.25	0.92
C 1	強い	81.	0.36	0.51	0.23	0.99
C 2	弱い	2.	0.57	-2.37	3.54	-22.38
C 3	やさしい	51.	-1.23	-1.46	1.01	2.41
C 4	きびしい	6.	4.40	7.03	15.92	-0.10
C 5	深い	76.	-0.31	0.10	1.08	0.17
C 6	浅い	1.	7.37	11.22	42.56	24.31
C 7	遅い	1.	11.38	-32.99	4.90	11.91
C 8	速い	72.	-0.20	1.40	0.35	0.42
D 1	固定的	18.	-0.74	-6.60	0.15	-3.96
D 2	流動的	30.	0.65	2.08	-2.30	-2.07
D 3	単純な	3.	8.48	-20.79	5.46	6.24
D 4	複雑な	84.	-0.71	0.44	0.17	0.32
D 5	きたない	20.	4.52	-6.86	-0.89	0.10
D 6	きれい	46.	-2.30	0.59	0.09	-1.62
D 7	恰好悪い	4.	8.34	-20.56	-8.16	0.17
D 8	スマート	37.	-1.37	0.71	0.69	0.26
E 1	不必要	2.	5.84	10.01	12.97	6.86
E 2	必要	11.	0.14	0.00	-0.06	-0.05
E 3	情熱	61.	-1.25	-0.86	-0.39	1.05
E 4	失意	13.	4.19	5.03	5.49	-8.73
E 5	不適	23.	5.65	2.15	0.21	-1.86
E 6	最適	23.	-2.92	-0.27	-2.53	-4.29
E 7	暗い	9.	8.15	-7.14	-0.27	-3.40
E 8	明るい	34.	-3.70	-0.85	-1.73	-1.18
F 1	医療従事者有	44.	-0.11	0.31	2.18	-2.39
F 2	医療従事者無	64.	0.69	0.23	-1.20	1.69
F 3	志望動機明確	92.	-0.49	0.12	0.84	1.73
F 4	志望動機不明確	16.	5.34	1.06	-3.67	-9.73
F 5	看護職以外に就職	12.	6.13	6.60	7.52	-4.93
F 6	看護職に就職	95.	-0.30	-0.50	-0.73	0.67
G 1	イメージ好転	48.	-0.97	-1.09	2.01	-3.18
G 2	イメージ悪化	28.	1.69	4.44	-4.87	2.84
G 3	イメージ変化なし	20.	3.52	4.79	0.30	-3.40
W 1	大学と職業選択は区別	38.	-1.16	-1.96	-2.64	-3.39
W 2	大学と職業選択は一致	50.	0.35	0.02	2.29	4.03

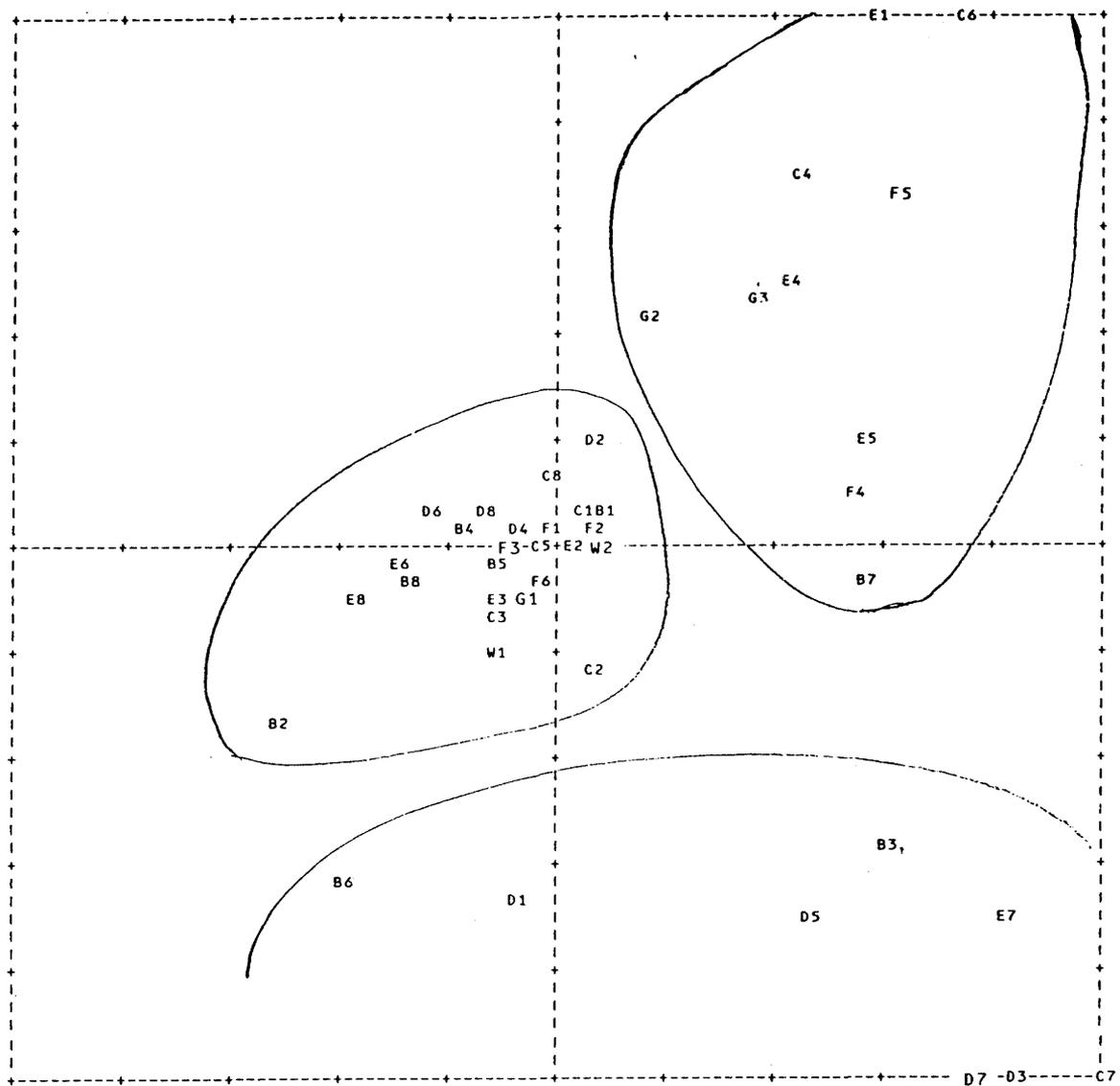


図1 表6の第1根と第2根のプロット図

引 用 文 献

- 1) 鳥居直隆：イメージの心理学，講談社，1965.
- 2) 続 有恒，村上英治編：質問紙調査，心理学研究法9，東大出版会，1975.
- 3) 松岡 緑，西田真寿美，関 文恭：因子分析による看護学生の老人に関する研究，九大医短部紀要，8,35-43，1981.
- 4) 三宅一郎，山本嘉一郎：SPSS 統計パッケージII解析編，東洋経済新報社，1977.